

性・好みの多様性

3年4組27番 林 真優

1. はじめに(テーマと動機)

本論文では、「性・好みの多様性」という探究テーマを設定した。元々ジェンダーにおける固定観念などに疑問を持っていたり、性的マイノリティを持っていると感じている知人が近くにいたりすることも多かった。また自分自身が男性らしさ・女性らしさなどをあまり気にせずにごろごろしてきたといったような経験から身近な事として探究できるのではないかと思ったためにこのテーマを設定した。

2. 序論

性と好みの関係性はイメージや制限によって固定されてしまっているものもある。例えば清水隆子によると、子供の色彩選好は幼児の段階から性差が見られ、色に対して男の子色・女の子色といった概念を持っている¹(清水隆子, 2003/09)。また甲子園を例にとってみる。喜岡桜によると、女子の硬式野球における甲子園での公式戦は2021年・2022年の夏に行われたのみにとどまっております²、野球が男子向きのスポーツであるというイメージができてしまっていたりする(喜岡桜, 2022/08/02)。

この様に例を探せば沢山存在するが、性や好みは性別ではなく個人によって異なっていて押しつけられるものではないと考える。なので性や好みに関連した不必要だと感じる制限は変更したり撤廃しても良いのではないかと思う。イメージを変える事は時間がかかるかもしれないが、制限に関しては明確な理由が存在すれば比較的すぐに変えていけるのではないかと思う。

そこで、テーマに対して問いを設定した。「性・好みの面で不必要だと思われる制限をなくすと、どんな変化や影響がみられるのだろうか」である。国際高校は性別関係なくスカートやスラックス等を選択できる比較的制限がない学校だ。しかし女子はスカート、男子はスラックスと性別で制服が規定されている制限のある学校と生活を比較した時に、大きな差が見られないと感じた。ここで本当に性別による制服の制限は必要なのかという疑問が湧いてきたのである。そこから制服についてだけでなく、性や好みに関連した様々な不必要だと思う制限について、それを無くした場合どんな変化や影響があるのか調べることにした訳である。仮説としては大きな変化や影響はないのではないかと考える。また制限をなくした場合を考えたり検証する事で、不必要だと思っていたが実は必要性のある制限が見つかる可能性があると思う。その問いを検証する為に、アンケート調査を行うことにした。性や・好みの

¹参考:清水隆子(2003年9月)「幼児の色彩選好と親のジェンダー意識 -ピンク色選好にみられるジェンダー・スキーマー-」早稲田大学大学院学術研究科紀要 別冊11号-1 P.87-95 <https://core.ac.uk/download/pdf/144439889.pdf>

²参考:Full-Count「女子高校野球選手権は横浜隼人が初優勝 開志学園との延長10回タイブレークを制す」(2022年8月2日) <https://full-count.jp/2022/08/02/post1260257/>

面で制限がある、或いは性別で分けられているいくつかのトピックに対して、制限を無くした場合に起こる変化や影響について様々な立場から調査した。

3. 本論

以下の通り

1. 「学校で化粧が許可された場合、どの様な変化や影響があると思うか」
2. 「制服の選択が出来る様になった場合、どの様な変化や影響があると思うか」
3. 「性別で分かれなないトイレが出来た場合、どの様な変化や影響があると思うか」
4. 「髪型・髪色に関する校則がなくなった場合、どの様な変化や影響があると思うか」

という4つのトピックについて生徒、教員、保護者・地域の3つの立場に分けてアンケートをとった。(生徒60名、教員12名、保護者・地域58名からの回答を得た) 以下の表はその結果である。

生徒目線	Q1	生徒にとって	教員にとって	保護者にとって	地域にとって
	良くなる	44人	9人	8人	5人
	悪くなる	3人	15人	8人	16人
	変わらない	11人	32人	41人	35人
	その他	2人	4人	3人	4人
	Q2	生徒にとって	教員にとって	保護者にとって	地域にとって
	良くなる	55人	25人	30人	20人
	悪くなる	0人	0人	2人	3人
	変わらない	5人	32人	26人	31人
	その他	0人	3人	2人	6人
	Q3	生徒にとって	教員にとって	保護者にとって	地域にとって
	良くなる	11人	7人	4人	5人
	悪くなる	29人	25人	22人	22人
	変わらない	7人	16人	20人	24人
	その他	13人	12人	14人	9人
	Q4	生徒にとって	教員にとって	保護者にとって	地域にとって
	良くなる	43人	16人	11人	6人
	悪くなる	7人	19人	14人	23人
	変わらない	9人	22人	30人	22人
	その他	1人	3人	5人	9人

教員目線	Q1	生徒にとって	教員にとって	保護者にとって	地域にとって
	良くなる	2人	1人	0人	0人
	悪くなる	7人	6人	8人	6人
	変わらない	2人	3人	3人	4人
	その他	1人	2人	1人	2人
	Q2	生徒にとって	教員にとって	保護者にとって	地域にとって
	良くなる	9人	6人	2人	2人
	悪くなる	0人	0人	1人	2人
	変わらない	2人	5人	7人	7人
	その他	1人	1人	2人	1人
	Q3	生徒にとって	教員にとって	保護者にとって	地域にとって
	良くなる	0人	0人	0人	0人
	悪くなる	8人	7人	7人	5人
	変わらない	0人	1人	1人	3人
	その他	4人	4人	4人	4人
	Q4	生徒にとって	教員にとって	保護者にとって	地域にとって
	良くなる	5人	4人	2人	0人
	悪くなる	5人	4人	6人	7人
	変わらない	0人	3人	3人	3人
	その他	2人	1人	1人	2人
保護者・地域目線	Q1	生徒にとって	教員にとって	保護者にとって	地域にとって
	良くなる	14人	0人	1人	1人
	悪くなる	18人	29人	26人	16人
	変わらない	15人	21人	21人	32人
	その他	9人	8人	10人	9人
	Q2	生徒にとって	教員にとって	保護者にとって	地域にとって
	良くなる	49人	23人	29人	17人
	悪くなる	2人	1人	1人	1人
	変わらない	7人	31人	26人	36人
	その他	0人	3人	2人	3人
	Q3	生徒にとって	教員にとって	保護者にとって	地域にとって
	良くなる	3人	2人	3人	3人
	悪くなる	42人	37人	39人	30人
	変わらない	3人	7人	7人	13人
	その他	7人	11人	9人	12人
	Q4	生徒にとって	教員にとって	保護者にとって	地域にとって
	良くなる	18人	4人	6人	5人
	悪くなる	16人	26人	22人	20人
	変わらない	18人	23人	26人	24人
	その他	5人	5人	4人	9人

1番回答者が多かった項目にそれぞれ色を付けている。

(例:生徒目線Q1 「生徒にとって」→「良くなる」が多数派)

同率の場合は2つとも色を付けている。

[良くなる:赤 悪くなる:青 変わらない:緑]

1. 「学校で化粧が許可された場合、どのような変化や影響があると思うか」という質問に対して、生徒目線では生徒にとって良くなると答えた人が圧倒的だった。その他の項目の中では変わらないといった意見を持つ人が多く、マイナスイメージを持つ人は少なかった。しかし教員、保護者・地域目線では、生徒にとって悪くなると回答した人が最も多く、その他の項目も悪くなるまたは変わらないという意見が多かったことから比較的マイナスに捉えている人が多いことがわかった。この質問では立場により考えの差が見られる。肯定的な意見としては「化粧をしても他人に迷惑はかからない」「自分の事を更に好きになることができる」等といった意見が見受けられ、否定的な意見としては「保護者が化粧品の代金を支払う事になると負担になる」「化粧品の紛失・盗難の懸念」等の意見が見受けられた。

2. 「制服の選択が出来る様になった場合、どのような変化や影響があると思うか」という質問に対しては、どの立場においても良くなるもしくは変わらないと答えた人が多く、全体的に良いイメージで捉えている人が多いことがわかった。肯定的な意見としては「自分が望む形

で制服を着こなせる」「個性が尊重される」等が見受けられ、否定的な意見では「制服の種類が増えると経済的に厳しくなる」「教員が多様な着こなしをどこまで許可するか悩む」等の意見が見受けられた。

3. 「性別で分かれなないトイレが出来た場合、どのような変化や影響があると思うか」という質問に対しては、生徒目線の回答のみ少し意見にばらつきがあったものの、全体的にみると悪くなるもしくは変わらないと答えた人が多く、あまり宜しくないと考えている人が多数派だった。肯定的な意見としては「静的マイノリティを持つ人が入りやすくなる」、否定的な意見としては「性犯罪が懸念される」「抵抗感がある」「子供を一人で行かせにくい」といった意見が見受けられた。またその他と回答した人の中には「男女別のトイレに加えて性別で分かれなないトイレが設置されるならばありだと思う」という意見もあった。

4. 「髪型・髪色に関する校則がなくなった場合、どのような変化や影響があると思うか」という質問について、生徒目線では生徒にとって良くなると答えた人が多かった。しかし他の項目ではいずれも良くなるを悪くなるが上回る結果となった。教員目線では、生徒にとって、教員にとっての項目で良くなると悪くなるが共に同数であった。しかし保護者にとって、地域にとっての項目ではいずれも良くなるを悪くなるが上回った。保護者・地域目線ではすべての項目において悪くなるまたは変わらないと答えた人が多数派だった。この質問でも意見にばらつきが見られ、回答者、また変化や影響を受ける人の立場によって良し悪しが変わると考える人が多いことがわかった。肯定的な意見としては「教員が注意する事が減るので楽になる」「個性が尊重される」等の意見が見受けられた。否定的な意見としては「若いうちから髪を染めると傷んでしまう」「外見で不真面目などの悪い印象を与えてしまう事がある」等の意見が見受けられた。

アンケートにおいて、それぞれの制限に対しての意見や選択肢を選んだ理由は立場によって変わることも多かったので、このようなばらつきのある結果が見られることになったと思う。

4. 結論

制服の制限に対する疑問から「性・好みの面で不必要だと思われる制限をなくすと、どんな変化や影響がみられるのだろうか」という問いについてアンケートを用いて調査したが、今回は「制服の選択が出来る様になった場合、どのような変化や影響があると思うか」の質問のみ、どの立場においても全体的に良くなると答えた人が多く、他の3つの質問では立場によって考えが変わったり、全体的に悪くなると答えた人が多いという結果になった。この結果を通して立場や視点を変えると不必要な制限かどうかは変わってくるということがわかった。生徒が不必要だと思っても、教員や保護者・地域の視点から見た場合、180度違う変化や影響が起こる可能性があることから、簡単に制限を変えようとするのはあまりよろしくないと感じた。しかし制服の選択のように、様々な立場から見て制限を無くすことで良い影響が出ると考えることができるものに関しては変えていけると考える。今後はこの様な変えて

いくことができそうな制限が中々変わらない理由、そしてどうすれば変えていけるのかについて考えていけたらと思う。

5. おわりに

今まで学生という立場でみると不必要だったり不便だと感じる様な制限に出会う事が沢山あり、その様な制限やルールはどんどん変えていけばいいと考えていた。しかし、例えば生徒会役員として既存の校則を変更したり撤廃したいと思った時に中々変えることができない現状も体感した。その時には学校や先生がお堅いなと感じることもあったが、今回の探究を通して、立場が変わると同じ物事に対してでも考えや良し悪しが変わってしまうのだなと感じた。当然制限を簡単に変えることができないわけである。どんな立場の人も納得出来る様な結論に辿り着くためには、何度も意見を擦り合わせていく必要があると思った。なのでこれから物事を考えていくときには様々な角度から物事の側面を考えたり、出来る時には自分とは違う立場や意見を持った人と十分に話し合う等して丁寧に考えていける様にしていきたい。

参考文献・出典

・清水隆子(2003年9月)「幼児の色彩選好と親のジェンダー意識 -ピンク色選好にみられるジェンダー・スキーマ-」早稲田大学大学院学研究科紀要 別冊11号-1 pp. 87-95 <https://core.ac.uk/download/pdf/144439889.pdf>

・喜岡桜. “女子高校野球選手権は横浜隼人が初優勝 開志学園との延長10回タイブレークを制す”. Full-Count. <https://full-count.jp/2022/08/02/post1260257/>, (2022/09/30)